

夢は夢

相洋中学校 二年 中嶋 一緒

私には将来の夢がありません。中学一年生の時、帰りのホームルームで「将来の夢」というテーマのもと、一分間スピーチをする機会がありました。なんと、クラスの半分以上の人は将来の夢が決まっていました。中には、この夢を叶えるには、この大学に行き、この資格を取り、この会社に入り、年収をいくら稼いでなど具体的な将来像を描いている人も何人かいました。もちろんこれから様々な経験を重ね、夢が変わることもあるでしょう。それでも私は同じ年齢の人が将来を見据えていることに驚きました。

今までの自分を振り返ると、何に挑戦してもすぐにやめてしまうことが多く、創造性に欠け、行動力も乏しいため「これ」といった頑張れることがありません。成人するまでのあと四年で自分のやりたいことが見つかるのか不安です。

しかしこのように、自分の将来について悩めるのは、とても幸せであるということ忘れてはいけません。日本は将来について悩める環境が整っています。広い世界、やりたいことをできない子どもが沢山います。日本では、すべての国民に教育を受ける権利が保障されているため、子どもは不自由なく教育を受けられます。だからこそ将来の選択肢が広くあるのです。しかし、世界には貧しい国もあります。貧しい国の子どもたちは教育が受けられないために将来やりたいことを選択できません。夢があっても、諦めざるをえないのです。そんな子どもが世界に三億五千六百万人もいます。教育が受けられないだけでなく、食糧や水、衣服など生活の基盤となる資源が不足しているため、飢餓や病気にも苦しんでいます。

日々、医療技術は進歩していますが、そのような国では十分な医療や投薬を受けることができないため、病気にかかった人々はまともな治療を受けられません。このような状況は、死亡率の増加につながり、特に乳幼児の死亡率が高い国も少なくありません。一つ例にあげると、インドでは貧富の差が激しく、今でも残るカースト制度によって貧しい生活を余儀なくされています。現在ではカースト制度を否定する風潮が高まりつつありますが、まだその風習は根強く残っており、下層カーストの大人たちは子どもを学校に行かせず、働かせている現実が見られます。生きるためには仕方がないことかもしれませんが、それでも日本に住む私からしたら、とても考えられないことです。

貧しい国を助けようと活動する人たちもいます。「ユニセフ」という言葉を聞いたことはありますか。ユニセフは、子どもたちの命、健康を守り、子どもが成長するために必要なものを十分手に入れられるように、整える活動をしています。個人では、国や人に直接働きかけ

ることは難しいかもしれませんが、支援団体を通じた募金や寄付は年齢に関係なく、誰でも行えます。みなさんは募金や寄付をしたことはありませんか。正直に言うと私は数えるほどしかありません。誰か他の人がやるだろうというくらいの考えでした。でも、貧しい国を支援する方法がこんな身近にあるのだから、意識して一緒に取り組んでみませんか。

私は将来にやりたいことがまだ見つかっていません。それでも今、こうやっておいしいごはんが食べられて、普通に学校に通えて、とても恵まれた環境にいます。未来がどうなっているのかは分かりません。ですが私は、数ある選択肢から将来を選ぶことができます。これからは沢山の経験を重ね、将来の夢を見つけたいです。そして、世界中の子どもたちが夢を持っているような世界になってほしいです。この世界、だれにでも夢を持つことができると思います。